

6. 2013年度日本数学会賞建部賢弘賞の推薦募集

下記の要領で第18回建部賢弘賞の推薦募集を行います。

日本数学会賞建部賢弘賞は1998年度より2部門の賞となりました。また2002年度奨励賞より応募要領に変更がありましたので御注意下さい。

なお、建部賢弘賞受賞者のうち大学院在学中の方一名は、日本数学会から日本学術振興会育志賞受賞者候補に推薦することができます。育志賞の推薦時期が早くなっており、育志賞にふさわしいと思われる候補については、3月初旬までに推薦（自薦・他薦）していただくようお願いいたします。

I. 日本数学会賞建部賢弘賞

1. 趣旨・種類 この賞は、若くして優秀な業績を挙げる等、数学研究の活性化に寄与している日本数学会会員を顕彰し、その研究を奨励する目的で制定するものとする。

日本数学会賞建部賢弘特別賞（以下特別賞という）及び、日本数学会賞建部賢弘奨励賞（以下奨励賞という）の2種類を設ける。

2. 対象 特別賞は、特に優秀な業績を挙げた若い数学者に対し、その業績を顕彰する目的でこれを授与する。

奨励賞は、極めて若くして優れた業績を挙げる等、数学研究の活性化に寄与した数学者に対し、その研究を奨励する目的でこれを授与する。

3. 件数 受賞者は、特別賞については年3名程度、奨励賞については年5名程度とする。

4. 選考 受賞候補者選考は日本数学会賞受賞候補者選考委員会（以下選考委員会という）が行い、理事長に答申する。

奨励賞候補者選考については、各々の候補に対し理事長が2名程度のレフェリーを委任し、選考委員会はその意見を参考にする。

5. 推薦 日本数学会会員による自薦、他薦及び受賞候補推薦委員による推薦を行う。

ただし選考委員会委員は推薦を行うことが出来ない。

6. 決定 理事長は選考委員会から答申された受賞候補者について理事会に諮り、受賞者を決定する。

7. 授賞 授賞式は秋季総合分科会において行う。

II. 推薦についての規定

1. 会員は、自分以外の35歳以下の会員を特別賞に推薦することができる。

2. 30歳以下の会員は奨励賞に自ら応募することができる。また、会員は自分以外の30歳以下の会員を奨励賞に推薦することができる。

3. 種々の困難な状況のもとで数学の研究を続け、日本数学会の活性化に寄与した会員も建部賞の対象とする。受賞候補推薦委員は、このような会員を特別賞・奨励賞に推薦することができる。この推薦にあたっては被推薦者の年齢を制限しない。

4. ここにいう年齢は、当該年度の4月1日付のものとする。

5. 本規定の実施は2002年度よりとする。

提出書類

1. 2013年度日本数学会賞建部賢弘賞推薦票

2. 主要論文1編の別刷またはコピー1部
注1) 「2013年度日本数学会賞建部賢弘賞推薦票」は17巻3号89-90頁にあるものをコピーして使用して下さい。また数学会のホームページのURL
<http://mathsoc.jp/office/prize/takebe/AppForm.rtf>

には、MSワード、一太郎など主なワードプロセッサで使えるリッチテキストファイルの形式の推薦票を用意してあります。

注2) 2枚目以降には下記の内容を含めて、3枚以内にまとめて提出して下さい。

1. 自薦の場合：これまでの研究の概略と今後の研究計画、論文リスト

2. 他薦の場合：推薦理由、論文リスト

注3) 締切期限：2013年5月31日（必着）

注4) 封筒に「建部賢弘賞応募」と朱記

の上，日本数学会事務局まで郵送でお送り下さい。

注5) 今回募集の受賞者の表彰式は，愛媛大学における2013年度秋季総合分科会第2日目9月25日に行う予定です。